

午後3時10分再開

○議長（手嶋源五君） 休憩前に引き続き会議を開き、一般質問を続行いたします。

次に、7番浅尾静二議員の質問を許可します。7番浅尾静二議員。

（7番浅尾静二君登壇）

○7番（浅尾静二君） 皆さん、こんにちは。7番浅尾でございます。本日最後の質問でございます。少々皆様、お疲れと思いますけども、最後までよろしく願いしたいと思います。

さて、先ほど12番議員からも、高校生の未来予想図についてのお話があったわけですが、私もその当日行かれなかったものですから、後からDVDを見せていただきました。高校生ながら、非常に熱心にこの朝倉市のことを考え、いろんな提言をしてありました。本当に、若い人たちも、この朝倉市の将来について、熱心に語られる時代になったんだなということを改めて感じております。

また、若手の職員の皆さんにおいても、政策立案の勉強会なり、政策立案能力を高めようという動きもどんどん出ておきています。まさに地域のことは地域で考え、地域で行うと、まさしく地方分権、地域主権の流れがますます来たのかなというふうに感じております。

我々地方議員にとりまして、そういった課題は突きつけられている問題でもございます。きょうの一般質問におきまして、少しでも朝倉市の政策に影響を与えるような質問にしたいというつもりで、きょうは質問をさせていただきたいと思います。

後は、質問席より質問を続行させていただきます。よろしくお願いいたします。

（7番浅尾静二君降壇）

○議長（手嶋源五君） 7番浅尾静二議員。

○7番（浅尾静二君） それでは、通告に従い質問をさせていただきます。

きょう、公共交通拠点についてということで、甘木中央バス停と周辺開発について、まずは質問させていただきますけども、まず公共交通推進室にお伺いさせていただきますけども、平成21年に市街地巡回バスの実証実験が行われました。すぐ中止っていいですか、なったわけですが、利用者も少なかったというところで、その後、甘観バスにより、美奈宜の杜線が循環バスとして、その後の事業の継続を図られて、市民の足を確保してあるという中で、今やっておりますけども、事業者の方から言わせると、利用者はやはりあんまり芳しくないというふうなお話もしてありました。

中心市街地における市街地巡回バスの機能は、やはり交通拠点を結んだり、あるいは郊外の量販店につなぐとか、そういった役割があったんですけども、このバスを今後またどのような形で残そうとするのか、そういった考え方は、市のほうに今考えがあるのかどうかを、まずはお尋ねしたいと思います。

○議長（手嶋源五君） 公共交通推進室長。

○公共交通推進室長（青木 茂君） 質問は3点あったかと思っております。

まず1点目が、平成21年度に実証実験を行いました市街地巡回バスでございます。当初から、市街地には巡回福祉バスが走ってございましたけども、そのバスの見直しということで、市街地巡回バスの実証実験を行いました。実証期間としては、10月から3月までの6カ月間ございましたけども、当初の目標を、路線バスの補助対象、路線の平均収支率の37.7%と目標を立てて、1日120人ということを目標を立てておりました。残念ながら、実証実験では、1日34人でございますので、効率性の問題から、市街地巡回バスは断念をして、当時走ってました甘木観光バス的美奈宜の杜線を充実をする形で、それに代替という形でやらせていただいております。

2点目に、美奈宜の杜循環線の利用状況ということでございます。21年度と22年度を比較しますと、1,509人の利用増がっております。ポイントとして、26.4%から32.4%の、平均乗車率が4ポイントほど改善はしております。ただ、美奈宜の杜線に向かう路線が、その前後で市内が変わるもんですから、なかなか時間的に拘束をされるという不便さもあるかと思えます。ただ、美奈宜の杜循環線は、甘木インターに乗り入れをしたり、大型店舗を回ったりということで、先ほど申しましたように、人数的には多くなってるのかというふうに考えております。

3点目に、市街地巡回バスの必要性ということでございます。私どもが、21年度の市街地巡回バスの総括の中でもしておりましたけれども、やはり市街地の巡回機能は非常に大切だというふうに考えております。市街地巡回機能が、来年度でございますけれども、今、相互連携計画の中では、25年度に美奈宜の杜線のバスの見直しを考えておりますので、それと並行して、できれば市街地機能を充実させるような交通も考えさせていただきたいというふうに、現在考えております。以上でございます。

○議長（手嶋源五君） 7番浅尾静二議員。

○7番（浅尾静二君） そういったお考えで、今後検討するということですが、やはり今、甘木の町の中でも、結構、交通空白地域がふえてきております。特に、地名でいいますと、双葉町とか神田町、それから新河町とか、甘木の北西部が特にそういった声をよく聞くようになってきております。なぜかといいますと、中心部のスーパーがなくなったり、特に高齢化率の高い地域でもございます。そういった場所に、やはりこまめに、いわゆる買い物バスの必要が出てきたのかなというふうに考えております。

市街地巡回地バスのときには、いろいろな課題がわかったわけですが、そういった課題を考えた中で、ぜひもう一回復活してほしいなと思っておりますけども、再度その考えについてお尋ねします。

○議長（手嶋源五君） 公共交通推進室長。

○公共交通推進室長（青木 茂君） 議員おっしゃるとおり、双葉町それから神田町等々の近くの商業施設がなくなった、非常に買い物にいく不自由をされているのは十分承知を

しております。と同時に、先ほど申しましたように美奈宜の杜線を25年度に見直しを行うということなので、できれば美奈宜の杜線と切り離しをして、市街地巡回を回るようなコースも設定をさせていただきたいというふうに考えておりますので、路線バスの再編計画の着工についても、順次公共交通推進室のほうでは進めていきたいというふうに考えております。以上でございます。

○議長（手嶋源五君） 7番浅尾静二議員。

○7番（浅尾静二君） 巡回バスの実験で、結果が明らかになった値段の問題、それから路線の問題、それから、きょう本題であります甘木中央バス停の乗り入れの問題、この問題があったわけですけども、中央バス停の乗り入れは、現在、西鉄以外は当然できておりません。それがいい中で、巡回バスをまた行おうと考えますか、どうでしょうか。

○議長（手嶋源五君） 公共交通推進室長。

○公共交通推進室長（青木 茂君） 中央バス停でございますが、甘木バス停というふうに言いましょうか。甘木観光では甘木中央というバス停の呼び方でございますが、隣接はしておりますが、離れているということで、利用の際には御不便をおかけをしているというふうに考えております。

公共交通推進室では、市街地巡回バスを運行するとき、平成21年7月に西鉄のほうには申し入れをしております。市街地巡回バスの乗り入れということで申し入れをしておりますけれども、市街地巡回バスの方向性が定かでないということで、西鉄のほうからは、乗り入れっていうことは遠慮してほしいということで回答をいただいているところでございます。

あわせて平成22年の12月に、今行ってます連携計画が、さらに充実してきて、地方部から甘木市街地のほうに乗り入れてくるバスがふえてくるということで、再度申し入れをしておりますけれども、まだまだ実現には至っておりません。

公共交通推進室としては、待合環境それから乗り継ぎ環境の整備というのが、非常に大切でございますので、相互乗り入れを含めて、西鉄のほうには申し出を今後とも続けていって、利用される方の利便性を増していきたいというふうに考えております。

○議長（手嶋源五君） 7番浅尾静二議員。

○7番（浅尾静二君） いろいろ今、連携計画でデマンドバスとかいろいろやってあります。やはり、先ほど室長の答弁のとおり、甘木中央バス停の乗り入れっていうのは、今後、路線バス、甘観バス、西鉄バスをつなぐ大事な場所でもありますから、朝倉市の公共交通、特にバス交通に限っては、あの場所の乗り入れを実現しなければ、次の事業展開には結びつかないというふうな認識だろうと思っております。いち早くこのことについても、後ほどまた市長からお伺いしたいと思っておりますけども、ぜひ実現しなければならない課題だというふうなことです。

それとあわせて、甘木中央バス停の持つ役割っていうのがあるわけです。まず、このことについてどのようなお考えを持っておられるのかを、まずは確認したいと思います。

○議長（手嶋源五君） 公共交通推進室長。

○公共交通推進室長（青木 茂君） 公共交通の観点から報告をさせていただきたいと思いますが、先ほど申しましたように、乗り継ぎ環境っていうのは非常に大事だろうというふうに思っております。

議員がおっしゃいますように、24年度4月からはデマンド交通が、さまざまなほうから出てまいります。その中で、1カ所で乗り継ぎができるというのは、非常に便利だろうと思います。例えば、現在、上秋月安川線の見直しを行っておりますけれども、それが甘木バスセンターに乗り入れができるようなことになれば、そこから今度は、市の主要施設それなり病院等々には楽に乗りかえができるということでは、非常に大切な役割を持っているというふうには、公共交通推進室のほうでは考えております。以上でございます。

○議長（手嶋源五君） 7番浅尾静二議員。

○7番（浅尾静二君） ちょっと質問の振り方が悪かったんですけども、やはり先ほどからの質問の中でも、いろいろやり取りがありましたけれども、やはり観光とか交流人口をふやすがためにも、やはり一番の窓口っていうか、顔なんです。この場所で、やはり秋月方面に行くとか、いろいろ観光の拠点にも恐らくなるでしょうけれども、商工観光課の課長も見えておりますけれども、観光という面で切り口を見れば、どういうふうにこの場所についてはお考えか。幹線というのは、やはり朝倉の三連水車とか杷木のバサロ、それぞれの地域を結ぶ大事な路線であります。この路線の役割等も含めて、観光という面から考えれば、どういうふうな認識を持っているのか、ちょっとお聞きしたいと思います。

○議長（手嶋源五君） 商工観光課長。

○商工観光課長（鶴田 浩君） 甘木中央バス停の観光としての、観光の面からの役割といたしますか、私どもの考え方ということですけども、現在、市外から朝倉市に、公共交通を利用して観光に来られるという方は、多くは甘鉄が多いのかなというふうな気がしております。甘鉄の甘木駅を経由して、それから直接、例えば秋月のほうに行ったりとか三連水車に行く場合もあると。三連水車に行く場合は、なかなかバスが連携していないというふうなことがあって、なかなかうまいぐあいには連結していないということですけれども、そういう今の現状を踏まえて言うと、甘木の中央バス停に、公共交通のバスがそこから発着をするというような形になると、例えば、自家用車を持ってない方につきましては便利になるのかなというふうな気はいたします。

ですから、観光の面からいいますと、そこの中央バス停だけではございませんで、いろんな拠点、拠点を公共交通で結んでいくというような形ができるならば、それに越したことはないというふうには考えております。

○議長（手嶋源五君） 7番浅尾静二議員。

○7番（浅尾静二君） 最初、甘鉄が拠点みたいな話になったんで、ちょっとどきっとしましたけれども、そういうことで、乗り入れができて整備ができれば、そういうふうな観光

としての活性化にもどんどんつながっていくよというふうなお考えが聞けたのは1つはよかったかなと思っております。

さて、昨年の9月議会におきまして、市長ともこのやり取りをさせていただきました。そのときの回答が、甘木中央バス停の整備、特にトイレとか乗り合い環境をよくするとか、そういった事業を早期に取り組んでくれというふうなやり取りをしたんですけども、そのときの答えが、甘木鉄道付近を拠点とする整備をする考え方が以前にあったことなどを含めて、甘木における交通拠点をどういう形にするかを検討するという回答がありましたけども、どういう検討をされたのかお伺いしたいと思います。

○議長（手嶋源五君） 市長。

○市長（森田俊介君） 前回の答弁でそういう答弁をさせていただいておりました。これは、甘木のバス停につきましても、中央バス停につきましても、非常に朝倉市にとっては重要な拠点であろうかと、交通の拠点であろうかというふうに思ってます。

また一方で、甘木鉄道の周辺についても、西鉄甘木線もございますし、あそこもまた1つの拠点であります。ですから、どちらが中心でどちらがということじゃなくて、例えばこれは、例えるのもおこがましいのかもしれませんが、福岡市はJR博多駅が1つの拠点であり、西鉄の天神が1つの拠点です。ですから、必ずしもこっちが主で、こっちが従なんだという考え方をする必要があるのかなと。それぞれに機能を果たして、それぞれが相乗効果をあらわすような形に持っていくべきではなかろうかというふうに、私自身は、今考えております。

○議長（手嶋源五君） 7番浅尾静二議員。

○7番（浅尾静二君） 拠点の考え方は、両二極という形で、市長も考えてあるということですけども、本来は、今の甘木中央バス停が拠点としてなるのであれば、甘木観光の乗り入れなり、トイレの整備なり、待合所の環境整備なりをしなければ、拠点としてはふさわしくないと、そういうふうな質問でしたけども、そのことについてはいかがお考えでしょうか。

○議長（手嶋源五君） 市長。

○市長（森田俊介君） 残念ながら、甘木の中央バス停については、甘木観光が運行しております路線バス、域内の路線バス、あるいは先ほどから、巡回バスのときもそうだったように、いろいろ歴史的な経過の中で、乗り入れができないのが今の現状です。ですから、私が市長になりまして、まず公共交通推進室にお願いしたのは、西鉄との、いわゆる乗り入れについての交渉、交渉ちゅうか話を持ってってくれという指示をしております。なるべく近いうちのほうがいいんでしょうけども、私としては、ある程度の話が煮詰まった時点で、私が直接西鉄のほうにも出向いてお話をさせていただこうというふうに考えております。ただ、時期的に、何もない時期に行っても同じことですから、ある程度事務レベルで話をさせていただいて、その後に行かせていただくということで、今考えております。

○議長（手嶋源五君） 7番浅尾静二議員。

○7番（浅尾静二君） 乗り入れの相談に、交渉に、担当課を含めて市長も出向いて交渉に行くというお話ですけども、整備をする、どういった交渉を向こうに持って行って、乗り入れの条件をクリアするのかっていうのが、非常な、難しい問題だろうと思いますけども、先日プラン21の総会が10月にあって、市長も御出席でした。そのときにも、市長は、西鉄のほうに交渉に行くというふうな話も、そのときにも伺っております。あれから2カ月過ぎてます。事務方を含めて、西鉄に交渉に行くっていうことを盛んに前から聞いていますけども、実際どうなのか、まず結果を。

○議長（手嶋源五君） 公共交通推進室長。

○公共交通推進室長（青木 茂君） 先ほど、冒頭にも報告をさせていただきましたけども、西鉄との協議には2回ほど行っております。平成21年の7月と、それから平成22年の12月でございます。やはり、議員おっしゃいますように、まだまだ西鉄さんとしては、不確定な部分が多いので、乗り入れについては御遠慮いただきたいということでなっております。

私ども、今、市長から指示を受けまして、前段の準備を進めさせていただいております。例えば、乗り入れとなると、西鉄本社の所有、西鉄の所有でございますので、乗り入れ料金等が要るだろうと、それが幾らぐらいの想定なのか、それから、トイレ等々の設備をするときにどうなのかということも、きっちり、やっぱり西鉄の考え方を聞いて、検討した上で進めなければならないというふうに思っておりますので、そういう前段の準備を今現在させていただいてるということで、御理解を賜りたいと思います。

○議長（手嶋源五君） 7番浅尾静二議員。

○7番（浅尾静二君） バスセンターのバスで、甘木中央バス停の整備については、後ほど、また後から、ちょっとやり取りしたいと思いますけども、先ほど交通拠点の話があって、甘木鉄道付近のことも前回、昨年の9月議会で質問しました。そのときに、322号線の路線計画の話もございました。それを含めて検討をするというふうなお話もありましたけども、共通拠点という考え方をすれば、322号のクランクを真っすぐしようとか、伸ばしてするという話も検討するという材料がありましたけども、その答えについてもちょっとお聞きしたいと思います。

○議長（手嶋源五君） 都市建設部長。

○都市建設部長（高良 寛君） 9月に引き続きの質問でございますが、現在、今お話がございましたように、322号線は、現在、大刀洗の陣内交差点から東田の交差点に至る区間について、バイパス工事が進捗をしております。県としての予定では、東田交差点までの工事が、平成25年度で完了を目標にして進捗をしておりますけれども、話を聞きますと、用地買収等々の関係で、若干おくれ気味だということは伺っておるところでございます。

議員も御承知のとおり、東田交差点から庄屋町の交差点までは、国道であると同時に市

の都市計画道路でもございます。計画を決定をしております。東田交差点から庄屋町に向かって、なかなか言葉では難しいんですけども、都市計画の計画ラインとしては、直線で行ってますけども、現道は曲がってる。ですから、現道と、いわゆる計画のラインというのがずれてるというふうな実情がございます。県とのお話でもあるんですけども、あの交差点付近が、将来の計画に沿って、交差点までの整備をしなきゃならん。ですから、市の計画を明確にしなきゃならんという課題が、我々にはかかっているわけでございます。そのために、その区間の街路の見直し、今、線形がずれてるものをそのままいくのか、それとも現道にそった形で計画ラインを変更するのか、その延長上にいわゆる庄屋町交差点があるわけです。庄屋町交差点は、今御指摘のとおり、国道322号線で見れば、クランク状態になっているというふうなことでございますので、今回の見直しとあわせまして、その交差点のいわゆるラインの修正、変更、このことも含めて検討しておるさなかでございます。

ただ、都市計画は、午前中の議論にもありますように、法的な、法定の手続をとって決めた道路でもありますし、計画でもありますし、これを変えるということも、法律に沿って手続をとり、いわゆる根拠をもって、合理的な根拠をもって、この計画変更の説明をしなきゃならんという責務も同時にあるわけで、そうしますと、その計画の背景なり、いわゆる根拠をつくるという作業の中で、内容によってはかなりの区域で、いわゆるプランが必要になってくるということもございますので、現在は担当としては慎重に検討を進めているという最中でございますので、どうぞ御理解いただきたいと思います。

○議長（手嶋源五君） 7番浅尾静二議員。

○7番（浅尾静二君） なかなか検討も時間がかかるみたいで、難しいですね。長年の、あそこのショートカットするのかしらないのか、東田交差点からの道をどういうふうに計画するのかっていうこの結論は、やはり早急に、やはり出さないといけない問題だろうと思っております。

西鉄、甘木の中央バス停と甘鉄付近の交通拠点の開発は、これは両方とも進めなければならない大事な案件だろうと思いますけども、今、甘木の町では、非常にプラン21の事業が進んでおります。なかなか効果を疑問視する声とか、いろんな声も、今、私の耳には入ってきておりますけども、その事業とあわせてバス停の整備をしなければならないというふうに考えていたわけです。

ことしの6月ですけども、大手スーパーの開発の担当者の方とお話をする機会がございました。個人的な会話の中でしたけども、大手スーパーが、甘木の中央バス停付近に進出する可能性があるかないかと、そういった話でした。あまぎの市が閉店をいたしまして、そういった時期でもございましたんで、いろいろお話をお聞きしておりましたけども、周りの環境、人口を考えると、立地的には3,000坪ぐらいの敷地があって、1,000坪ぐらいの店舗を構えれば、非常に採算は乗るんじゃないかという考え方だったんですけども、それ

と、前に中央バス停があるというところで、中央バス停があって、この交通拠点の開発が進めば、非常にこれは、スーパーとすればプラス材料だなというふうな話もしてありました。ただし、ネックとすれば、386号線を中央バス停が、ちょうど裏側になるんですけども、北側、今の西鉄の駐車場を含んだところの3,000坪の敷地であり、1,000坪の建物の話でしたけども、中央バス停が386号にあることで、前面の道路をふさぐというのもちょっと問題がある。それから、386号線の都市計画道路の整備も早急に必要があるだろうと、それから、福岡銀行と、中央銀行の挟んだ道、今、道路整備を、道路拡張をして、庄屋町側から来たほうの右折車線をつくろうというところで、道路事業、中央銀行側に道路事業として、今、話も交渉にしておりますけども、その交差点の改良を含めて、総体的に考えれば、非常に可能性のあるおもしろい話だろうというふうな話をした経過がございました。

そういったことを考えると、やはり全体的に甘木の中央バス停の開発と、周辺開発を含んだ中でやはり考えることが、非常にやっぱり今後進めていくには非常に重要だなというふうに、そういった結果で、県協議もなったわけですけども、そういった県を巻き込むとか、そういった話をどんどんやっぱ積極的にしていかなければならないと、私は思います。そういった考え方について、市長はどういうふうな考えをお持ちか、まずはお伺いしたいと思います。

○議長（手嶋源五君） 市長。

○市長（森田俊介君） 今言われてるのは、いわゆる今の中央バス停周辺を開発をしないということを言われてるんだらうというふうに思います。確かにあそこにあまぎの市があって、今閉店してるから、買い物等には随分不自由をされてる方もいらっしゃるというふうにお聞きいたしております。

その民間の企業がどういった企業か、私は知りませんが、民間が本当に出てきましようということだったら、こっちは当然相談に乗って、一緒にやりましようという形になります。もちろん、話を聞いてみたうえでですけど。しかし、ただ、うわさでこげんとこ来とるよということで、前もってしなさいということであると、今じゃあその時期なのかということも考えていかなきゃ、一方で考えていかなきゃならんというふうに思ってます。

ですからいずれにしても、さっき申し上げますように、あの場所というのは、これは甘木の方だけじゃなくて、朝倉の方からも言われたんです。自分たちはバスに乗って甘木のバス停で降りて行ってた。だからあそこがああいう状況じゃ寂しいんです。ということは、市内の朝倉の方も言われるんです。ですから、私としては何とかしたいという気持ちには変わりはありません。ただ、だからといってあの土地を、この前も、昔計画があったようですけども、市で全部買ってどうこうせえと、そこに民間と色々な投資が出てくるということであればやぶさかじゃないんですけども、残念ながら現状ではそこまでない。

じゃあ、今の時点で何が一番優先すべきかということは、先ほど申しましたように、あそこにいわれる路線バス、域内の、甘観を含めた路線バスと、今、いろんな地域の民間バス等を取り入れさせるような形をまずつくりたい。その上で、その後いろんな展開を考えていくべきだろうというふうに考えてます。

○議長（手嶋源五君） 7番浅尾静二議員。

○7番（浅尾静二君） 市長のお考えが、まさに私もそういうふうの実現しなければならないというふうに思ってるわけです。民間を、ただバス停を、中央バス停を前回の計画を22年の3月に、そういった計画が出てきたわけです。朝倉市が、西鉄の敷地を買収してバス停の整備と、それから駐車場を整備して、待合所、トイレの整備をやるという、そういうふうな方向が出た。そのことについて、ほかの議員も含めて疑問視する声が多かったのも事実でした。それをもって考えたというわけでもないんですが、やはり皆さんの意見を聞くと、中央バス停の整備は、これはやっぱせないかんだろうと。ただし、そこだけにやる、できる問題じゃないと。やはり交差点の改良、それから、やはり民間の投資なりを巻き込むような、同時な開発をしなければ、やっぱり本当の活性化にはつながらないというふうなことは、私も市長もその考え方は一致したと思います。

じゃあ、それをどうやったら実現できるかっていうことなんです。この実現が、それこそ民間が来るのを、話を待つのか、市がやるのを民間が待つのかっていうふうな話になると思いますけれども、これはやはり同時進行で行かなければならないと思うわけです。この同時進行を、じゃあどうやったらこの話が進んでいくかっていうことなんです。

実は、商工会議所の中に甘木まちなか活性化協議会っていう会議がございます。この会議は、あくまでも商工会議所内の、内といいますか、商工会議所の会頭が会長であり、地元から銀行の関係者あるいはバスの事業者、それから地元の方々が入りながら、そういう会議を、ここ1年ぐらいちよっとまだ、今やってませんが、バス停の開発についていろいろ研究した会議でございます。こういった会議を、やはり持つことが非常に大事と、私は思うんです。会議をするその場、この場をつくるのが、やはり我々が入っても、商工会議所等が入り、市も入りながらやったとしても、なかなか前に進まない、これをいかに前に進めるかちゅうたら、どうしてもやっぱお金も必要です。何にお金がかかるかちゅうたら、やっぱまちづくりの専門家なり、そういった人たちもやっぱ入ってもらって、本当にプランを掲げながら、図面を書きながら進めていかなければ、僕は前には進まないと思うんです。そういった会議のテーブルを、やはりもっと、今度は建築関係者とか、いろんな人たちを巻き込みながら、僕は進めるべきだと思いますけども、そのことに対して、積極的に支援をまたお願いしたいと思いますけども、そのことについてはいかがお思いでしょうか。

○議長（手嶋源五君） 市長。

○市長（森田俊介君） そういう形で、皆さん方が、そこに住む人を含めて、お互いいろ

んな形で勉強されるということはいいいことだろうと思うんです。また、それに対する、市が財政的な支援ということになりますと、そこにはちょっと待ってください、考えさせてくださいと、今の時点ではです。どういうものをするかによって変わってくると思います。そのこと自体は大変いいことだというふうに思ってます。

○議長（手嶋源五君） 7番浅尾静二議員。

○7番（浅尾静二君） 財政的な支援については、今この場で、じゃあわかりましたとは市長も言うはずはないと思いますけども、1つの考え方として、まちづくり会社とかありますよね。これは第3セクターで、そこまで話が飛躍する話をするつもりはございませんけども、例えば、今、あの地域で一番困ってるのは、あまぎの市の閉店で買い物する場所がなくなったとか、先ほどの巡回バスがありましたけども、ああいったコミュニティバスをまた走らせるとか、そういったことを地元が出資して、そしてそこに、また市も出資して、いわゆる第3セクター、まちづくり会社でそういったことを運営しようという動きがあれば、本当は理想的なんですけども、なかなかそういう議論にはならないわけです、そこまでは。だから、そういった中心市街地活性化法とか、いろいろそういったものもありますけども、そういう機運づくり、そういった機運づくりを着実に進めていくためには、やはりある程度そういう、検討するにしても、勉強会にしても、やはりお金がかかることであって、そのことについて市に助成をしていただきたいなと、私は思います。これは、先ほどのコミュニティバスでも、税金を投入してやるわけですけども、それを本当は民間がやれるぐらい、自分たちで考えてやれば、非常にいいまちづくりが、私はできていくだろうと思います。

この、やはりバスセンターの整備については、甘木中央バスセンターの整備については、11月にも、甘木地区コミュニティ協議会から要望書も、早期にあそこの整備をやってくれという要望書も出されております。それに対する回答も、なかなか厳しいものだったみたいですけども。

もう一度市長に確認をしますけども、構想の考え方は、今のやり方、今の場所で、トイレの整備と、それから待合所の整備と、それを朝倉市でやるにはどうだと、ぜひそのことについてはやってくれという要望が強いわけですけども。今の現状としての考え方をもう一回お尋ねします。

○議長（手嶋源五君） 市長。

○市長（森田俊介君） あの土地は、西鉄の所有の土地です。ですから、今、私どもがいろんなものを市でやりますということは、私は避けておきたいと思うんです。それも含めていろんな交渉のやり方があると。ですから、ここでああしますこうしますということは、ちょっと申しわけないですけども、御遠慮させていただきたいと思います。

○議長（手嶋源五君） 7番浅尾静二議員。

○7番（浅尾静二君） なかなかお答えを引っ張り出すのは、今の時点では難しいでしょ

う。

ただし、先ほど西鉄のほうに交渉に行くという市長の話がございましたけども、これはぜひ西鉄と早く話をまとめられて、その方向性を、西鉄に対する方向性も、早く朝倉市として、やはり考えなければいけない問題じゃないかなと思います。

先ほどのバスセンター周辺の開発、これも市がそういった構想を持たないと、なかなか地元からもそういうふうな機運になりませんので、そういったことも含めて、朝倉市としてあの地区をどういうふうに構想していくのか、あわせて甘鉄の、先ほどの件もありましたけども、どういうふうにショートカットを実現させながら、両、2つの拠点を考えていくのかという構想を早く、私は、市として市民に示してください。

この件については、ある程度方向性が出るまで、私は、何回でも一般質問をやるつもりですので、よろしくお願いしておきます。

それでは、次の質問に行きます。ワンストップサービスの件ですけども、先ほど12番議員からワンストップサービスの件については、いろいろもう詳しいお話もありましたんで、内容につきましてはもう触れません。

総合窓口という形で、ワンストップが3,000万円の補正予算がついて、9月議会でしたか、それで、先ほど1月4日に全面改装してやるというふうな話ですけども、やはりここまでお金をかけてやること自体に対する市民のいろんな声も、また聞くわけですけども、必ず市民サービスの向上に、私はつながらなければならない。当然つながるものというところで、とりかかってありますけども、反面、このお金をかける以上、これが行政改革なり、行政の効率につながるものもあわせて考えなければならない今回のワンストップサービスになってほしいと思いますけども、行政の効率とか、そういった面にはどのような形になっていくのかを聞きたいと思います。

○議長（手嶋源五君） 人事秘書課長。

○人事秘書課長（安部裕志君） ソフト面といいますか、職員の窓口サービスのソフト面といいますか、そっちのほうについては、本年3月から試行段階で、試行期間を踏みまして、試行をしてきておるという状況でございます。これについては、徐々にステップアップをいたしまして、現在を迎えておるという状況になります。

なおかつ年末に、今度はハード面の整備を行うということになりますので、より機能的なサービスが提供できるというふうに考えております。

お客さんを気持ちよくお迎えし、お帰りいただくということを心がけておりますので、そういった面で、住民サービスの提供になるかというふうに考えております。以上です。

○議長（手嶋源五君） 7番浅尾静二議員。

○7番（浅尾静二君） 市民サービスにつながるっていうことは、もうわかってるんですけども、行政、役所なりの効率については、どういうふうな感じになるのかを聞いてるんですけど。

○議長（手嶋源五君） 総務部長。

○総務部長（渡邊義明君） 浅尾議員お尋ねの件でございますが、行政改革、いろいろあります。こういった、今回の窓口サービス、そういったものについては、行政としてはサービスですから、行革に直接つながらないかもしれません。

建物がこういった建物ですから、1つの窓口で市民の方が待ってもらいます。そういったときに、5階から降りてきます。5階から降りてくるのは下水道関係とかです。福祉の関係だったら下から上がってきます。そういったところからすれば、必ずしも行革とはならないかもしれませんが、桑野議員のときも言いましたように、わかりやすく安心して、手間を軽減できるというのが、一番の目的だと思っております。以上でございます。

○議長（手嶋源五君） 7番浅尾静二議員。

○7番（浅尾静二君） 私の認識不足だったのかもしれません。ワンストップサービスで、それだけカウンターをつくられて、職員の皆さんが手間が省けてることも、これも、そういった面も、私はもちろんあるんだろうというふうに思っていましたけども、そのところは余り考えて、余りそういったことまではないというふうにとってよろしいんですね。

○議長（手嶋源五君） 副市長。

○副市長（埜本 潔君） 一義的には、今、総務部長が言ったような、市民の皆さんが、安心してついていきますか、できるような形でというのが総合窓口の考え方なんですけど、やっていく場合に、少しでも迅速にっていうのがありますから、これまでよりもお待ちいただく時間を短くすると、そのことが結果として、事務の効率性を上げるというところにつながってきますんで、そういった意味では、行政改革という視点も若干ございますけれども、市民のところでは、今説明したもんですから、そういった説明になっておりました。

○議長（手嶋源五君） 7番浅尾静二議員。

○7番（浅尾静二君） その次の質問項目に、私は、正面玄関横の別棟を市民情報発信に活用できないかと、ちょうど正面玄関の右側ですけども、今、保険年金課の資料室として、あそこを使われてあります。

先ほど、ワンストップということで、情報発信とか、12番議員のやり取りの中でも、やはり朝倉市として、観光の情報とか農産物、いわゆる6次産業が、今どういうふうに行っているよとか、朝倉市としての営業力を上げなければならないと、そういうふうなやり取りはあったわけですけども、実は私も全く同じような考え方を持っております、朝倉市には地域資源、観光資源、それらいいものがたくさんあるわけです。ホームページにつきましても、副市長もまだまだ改善の余地はいっぱい残されているというふうな話もしてありましたけども、私は、やはりハード面でも、朝倉市の今の市役所は、ここで何かにもできるはずありませんけども、やはり重点政策として、地域経済を活性化しなければならないとか、雇用をふやさなければならないとか、そういう時代に来ております。だから、なおさらハード的にも、そういう情報を発信する場所が本庁の中に、私は市民の目にもつ

と触れるべきではないのかなというふうに思うわけです。

ワンストップサービスを今度整備することによって、そういった情報とかを出すような仕組みを考えているというふうな、先ほど話もあったんですけども、もっとあそこの、今言いました別棟、いわゆる保険年金課の資料室がありますけども、そこで観光の情報とか、6次産業は今こうなってるよとか、もうちょっと市民の皆様に、目を触れる場所に、提供したほうがいいんじゃないでしょうかという提案です。職員も、毎日あそこを通るわけです。朝倉市を挙げて、こういったことにも朝倉市挙げて、観光事業なりそういった情報、新しい分野で、やっぱり営業もやってるよと、そういうことを朝倉市、市役所挙げて、やはり僕は示すべきじゃないかなと思いますけども、そのことについてはどう、その考えが通じるのかどうかをちょっとお聞きしたいと思います。

○議長（手嶋源五君） 総務部長。

○総務部長（渡邊義明君） ただいま御提案があったわけですが、看板は保険年金課の資料室となっておりますが、レセプト点検室で、確かに職員がおります。派遣というか、委託の職員がおりますが、現在のところそういった、組織という話になりますけど、正面玄関の別棟をという話ですが、今のところ考えてはおりません。

○議長（手嶋源五君） 7番浅尾静二議員。

○7番（浅尾静二君） あっさり考えてないと言われたんですけども、今の朝倉市の現状です。もうちょっと考えないと、私はいけないんじゃないかなと。非常に、やはり景気も悪くなってきております。雇用環境も非常に悪くなってきております。恐らく、きょうの一般質問でもそういった話がありましたし、また今後もまだあるでしょう。やはり市民に対して、市役所挙げてやってるよという、そういう姿を、僕は見せる必要があるんじゃないのかなと、本当に思いますよ。ホームページとか、ホームページなどでやる分には、もちろんいいんですけども、やはり市として組織機構の改革も考えてあるみたいですけども、もっと柔軟に、今の朝倉市の現状を踏まえた中で考えることも、私はありじゃないかなと思いますけども、副市長、どうお考えか聞きます。

○議長（手嶋源五君） 副市長。

○副市長（埴本 潔君） 別棟をということだったもんですから、ちょっとストレートに答えてしまったところがありましたけれども、議員おっしゃいますように、さまざまな形で情報を発信して、そのことを朝倉市の活性化につなげていくと。なぜそもそも行政が、観光であれば観光に取り組むのかといいますと、やはり観光というのは1つの大きな産業といいますか、それによって、御承知のとおり、もうわかっていることを言うのもあれなんですけれども、人が来て、そこで経済活動が行われるということになりますんで、単に民間ベースでということじゃなくて行政が取り組むと。ですから、情報発信の手段っていうのは、さまざまな場所で、さまざまな媒体を通して行うということが必要ですから、ですから、朝倉市役所の中においても情報発信をしていくということは必要であるというふ

うに、おっしゃるとおり考えております。

今、総合窓口の前にパンフレットを置いてますけれども、なかなか実際に、あれが住民の方の目にとまって、それを見てどこかに行ってみようっていう行動につながらないということだと思いますので、より、何といたしますか、積極的に情報を発信して、実際に人が動くような仕掛けを何らかの形でできないかと。

どういうやり方がいいのかっていうのは、ちょっと試行錯誤してるところがあるんですけど、例えばホームページにつきましては、やらないといけないという認識はあるんですけど、十分やり切ってないというようなところがありますから、実際にそういう情報発信をやってる専門家あたりにいろいろと教示を受けるとか、そういうことを含めて考えないといけないのかなということで、決して、市役所内から情報を発信していくことが無意味だというつもりはございませんし、そのことは非常に必要なことだというふうに考えてます。

○議長（手嶋源五君） 7 番浅尾静二議員。

○7 番（浅尾静二君） 1 月 4 日から、1 階のフロアが本当にさま変わりしていくわけですけども、やはり市民サービスはもちろん大事ですし、市民がやっぱり市役所に来てよかったなという体制づくりが本当に必要だろうと思います。そのためには、やっぱハードを整えるということも大事です。

もっと、どうせ変わるんであれば、今の時代に即応した市役所づくり、組織を含めて、今の時代に即応した柔軟な組織を考えていただきたいと、それだけ、やはり今の朝倉市の経済は、私は、落ち込んでいるし、非常に悲鳴を上げている状況です。そのことを十分市の皆様も理解して、バスセンターの件にも、バス停の整備もそうです。すべてを含めて、今の経済状況をよく考えて、組織機構改革なりを取り組んでいただきたいと要望して、私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（手嶋源五君） 7 番浅尾静二議員の質問は終わりました。

以上で、本日の一般質問を終わり、残余につきましては、12 日午前 10 時から本会議を開き、続行いたします。

以上で、本日の日程は全部終了いたしました。

本日は、これにて散会いたします。お疲れさまでした。

午後 4 時 5 分散会